



GPSロガー試用 中道經由 薬師ヶ岳
(2780m) (無雪期ピークハント／縦
走 / 甲斐駒・北岳)

by
gekiyabu 

日程：

2012年07月22日(日帰り)

メンバー：

gekiyabu

天候：

登山口は小雨、山頂は頭上は晴れ、周囲は雲の壁

地図：



WEB SERVICES BY YAHOO! JAPAN

標高グラフ：

コースタイム：

4:36 中道登山口 -- 6:44 御座石(標高2400m) -- 7:32 薬師ヶ岳 8:11 -- 8:32 御座石(標高2400m) -- 9:39 中道登山口

コース状況／その他周辺情報：

- ・ 中道登山道より薬師ヶ岳を往復。登山口から山頂まで標高差は約1500m。
- ・ 登山ポストなし。たぶん青木鉱泉にある
- ・ 登山口付近は小雨だったが標高が上がると晴れのエリアに
- ・ 登山道は整備され、体に触れる草木は少ししかない
- ・ 道は明瞭で迷う心配は無い

・ 山頂上空は青空だったが周囲は雲に囲まれ、観音岳以外の展望無し



写真：



中道登山口はここを右に曲がったところ



中道登山口。ここまでマイカー可



登山道は立派



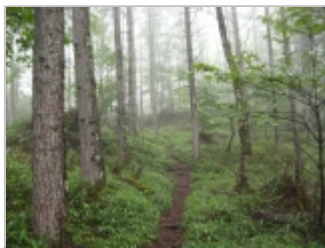
まだ暗い樹林の中を登る



標高1330m付近



廃林道を横断



唐松植林帯を登る。周囲は低い笹



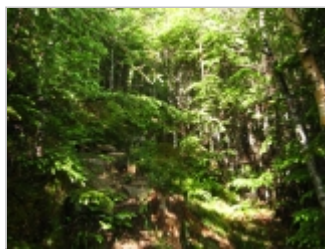
標高1970m付近の緩斜面帯



標高1970m付近の標識



標高2030mで笹原が消えて苔むしたシラビソ樹林に変わる



標高2200m付近で日が差した！



標高2400mの御座石



標高2500m付近。少しシラビソが低くなってきた



標高2660m付近



やっと山頂部が見えた



標高2660m付近。いよいよハイマツが登場し森林限界



森林限界突破



地形図上の薬師ヶ岳山頂



薬師ヶ岳山頂からの西側半分の展望



ガスの切れ間から観音岳が見えた



観音岳に向かう登山者



山頂の気温は約10℃



購入したばかりのGPSロガー。10年以上前のGPSより格段に感度がいい

感想／記録 : (by gekiyabu)

土曜に続いて日曜も悪天の予報で、高い山はどこも雨やガスが予想された。こんな時に山に出向くのも何であるが、昨日の山は軽すぎてトレーニングになっていないことを

考慮するとそこそこの標高差を歩くべき。月曜日の仕事に支障をきたさないよう早めに帰宅できる山として、鳳凰三山薬師ヶ岳を考えた。いつもは夜叉神峠から入るのだが、ここは標高は高いが水平距離があって往復に時間がかかるのが難点であったが、地図をよく見ると青木鉱泉からドンドコ沢経由で観音岳に登るルートの他に、薬師ヶ岳東尾根に登るルート(中道ルート)があった。しかもここは林道が奥まで延びていてネットで調べた結果、登山口の標高は1260m。薬師ヶ岳山頂が2780mなので標高差1520m。私の足で予想される所要時間は約3時間半。下りは2時間程度だろう。午前中に登山口に帰るにはちと厳しいコースであるが、どうせ悪天で途中で撤退する可能性が高いだろうと判断し、珍しく山頂に立たない覚悟での出発となった。よって持ち物は少なく、水は持ったが飯は無し、防寒具は長袖シャツにゴアのみとなった。代わりに雨対策で傘とロングスパッツが追加となった。

中道登山口は青木鉱泉からさらに奥に入った場所にある。青木鉱泉手前で舗装が終わってダートになるが、青木鉱泉前までは舗装工事中なので近日中にきれいな道になりそうだが、その先はダートのままだろう。工事でやっているのか頻りに車が入っている形跡であった。スタックが心配な泥濘は皆無で助かったが、路面上に大きな石があちこちに顔を出していて、普通車だと底を摺らないよう石や穴を避けながらゆっくりと走行する必要がある。それでも普通車で入れるレベルで大助かりだ。林道の分岐が3か所ほどあったと思うが「薬師ヶ岳」の案内標識が立っているので間違えることはないだろう。最後に標識に導かれて右に曲がって林道から離れるとどん詰まりが登山口。先客の車が1台のみ。たぶんこのルートの利用者の大半は青木鉱泉を起点としてドンドコ沢ルートと絡めて周遊だろうから、ここに車を置く人は少ないのだろう。左手には廃屋らしい大きな小屋あり。

登山口出発は4時半。夜明けの時刻で通常なら充分明るいはずだが、厚い雲が垂れこめてガスが立ち込め小雨が降り続いて真っ暗に近くヘッドランプを点灯して出発。最初は平坦地だったが小さな沢の横から斜面に取り付いてからは一気に高度を上げる。気温は低めだと思うが登りでは汗をかかされる。最初はシラビソ樹林だが整然と並んでいるように見え、たぶん植林だと思う。標高1550m付近でいつの間にか唐松植林帯に変わっているのに気づいた。そして標高1600mで廃林道を横断。この林道が生きていればここまで車で入れたのだろうが。この付近の路面は木は生えておらず低い草だけなので、もしかしたらバイクなら入れるかも？ 登山口の小雨はここでは降っておらず、雲と雲の間に入ったようで下界の雲海が見えていた。さて、山頂は上部の雲を突き抜けて晴れているなんてことになっているといいのだが。

ここからしばらく唐松植林帯が続き、地面は低い笹に覆われるようになった。どこでもそうだが唐松植林には何故か笹が付きものだ。今日のように雨で笹が濡れている時には登山道のありがたみが大きい。標高1760m付近で尾根が広がって傾斜が緩やかになるので現在位置の確認になる。次に傾斜が緩むのは1970m付近で、ここだけは唯一樹

林が開けて明るい笹原であった。ここには標識が立っていて「薬師岳山頂 3時間 青木 鉱泉 1時間40分」と書かれていた。ここから山頂まで標高差約800m、一般登山者では3時間の設定は妥当な線か。

標高2000mを越えると唐松植林が終わってシラビソ自然林に変わるが、少しの間はまだ低い笹が蔓延る。やがてふかふかの苔むした地面となって本来の自然が回復。やっぱり南アはこうでなくちゃ。結構な傾斜で効率的に高度を稼ぐ。標高2100m付近で突然直射日光で樹林が明るくなった。上を見ると樹林の隙間から青空が見えるではないか！これはマジで山頂で晴れが期待できるかもしれない。こうなれば出発当初の「途中撤退」の考えは消え去り、山頂目指して登り続けることに決める。雨でも登る決断をして良かった。ただ、ここから山頂が見えるわけではなく稜線は雲が絡んでガスっている可能性はそれなりに高いのは覚悟だけ。

標高2400mで登山道が右に直角に曲がるところに巨岩が鎮座、御座石だ。広い岩屋になっていてにわか雨を避けるのにちょうど良さそうだ。ここに立つ案内標識では山頂まで1時間半だった。なおもシラビソ樹林を登っていくと標高2500m付近で石楠花登場。いよいよ高度が上がった感がある。標高2600mを越えるとシラビソの幹が細くなってきて森林限界間近を感じさせる。2640m肩で初めて薬師ヶ岳山頂(もしくは山頂直下)の姿が見えた。残念ながらガスがかかっているが雨は無さそうだ。

標高2660mを越えるといよいよ森林限界で、立ったハイマツの海に開かれた登山道に突入。南アでの森林限界ピタリだ。標高2750mを越えるとハイマツが切れて花崗岩の巨岩と花こう岩が風化した白い砂礫帯に。これこそ鳳凰三山だ。巨岩の隙間を縫って登り、傾斜が無くなると山頂の一角に到着、しかしまだ山頂ではない。南北に巨岩ピークがありどっちが山頂なのか判断に苦しんだためエアリアマップを広げると北側が山頂だったのでそちらに向かう。適当に砂礫を登って最高点へ。自然地形の最高点は巨岩のてっぺんだが「普通の地面」の最高地点を山頂としていいだろう。そこには山頂標識は無かったが小さなケルンがあった。頭上は晴れて青空が見えているが周囲は雲の壁で、周辺の山はお隣の観音岳が時々雲の隙間から姿を見える以外は展望は無かった。本当は白根三山がドドーンと聳えているのだが……。まあ、雨が降っていないだけでもラッキーだけど。

この時刻にこの辺りに見える人影は昨日入山した人に間違いない。昨日は確実に雨だったと思うが御苦労さま。眼下に見える広場には数人いるだけ。観音岳に向かう縦走路にはカラフルなザックカバーが見えていた。こちら休憩は下の広場ですることにして縦走路に下る。広場には山梨百名山の山頂標識あり。正確には山頂ではないかまあいいか。平たい巨岩の上にひっくり返って休憩。太陽の方向は雲があるので青空が見えていても日差しがないが、無風状態なので長袖シャツを着ているだけでも寒くはなかった。気温は10℃。休憩中にやってきたのは全部で5,6人で意外に静かな山頂だった。鳳凰小

屋で幕営したという関西弁を話す3人パーティーによると昨日はやっぱり雨だったようだ。これから私と同様に中道を下って青木鉱泉に下り車でお帰りらしいが、関西までは遠いなあ。

40分ほどの休憩で下山開始。登りは3時間だったので、この傾斜なら下りは半分の1時間半くらいと見た。午後の早い時間帯に家に帰れそう。山頂を離れて砂礫の斜面を下るとすぐに立ったハイマツから樹林帯に変わり、森林限界の高山帯の雰囲気が終わってしまった。あとは黙々と下るのみ。先客はいないと思ったら下っている単独男性を追い越した。足跡はなかったのだけれどなあ。登ってくる登山者は合計5,6人くらいだった。標高が落ちると雲の層に入ってガスり、さらに下って登山口付近では出発時と同様に霧雨が降っていた。

おまけ GPSロガー初体験

ヤマレコを使い始めて以来、写真と地図の連携が手動設定では面倒だったため、GPSロガーを購入。ハンディーGPS(etrex venture英語版)は持っているが10年以上昔の機種で感度が悪く、樹林帯ではほぼ使えないし、液晶画面表示が頻繁におかしくなっていて買い替え時期であった。GPSロガーとは歩いた軌跡を記録する機械で、一定間隔で緯度経度を記録し続ける。世の中にはいろいろな機種が出回っているが、画面で状況が確認できることを考慮して「i-gotU GT-800」を購入。重さは51gなので今使っているGPSより格段に軽いし小さい。それに新しいGPSチップなので感度は格段にいいはずだ。

山で使う前に通勤で使い、PCへの取り込みができることを確認。実際に初めて山で使ったのは伊那の穴倉山。長時間使ったのは今回の薬師ヶ岳が初めて。ただし、自宅に戻ってPCにデータを取り込まないと結果は分からない。結果的にはGPSを腕にはめて歩いたであまり良い受信条件ではなかったが、そこそこまともなログが取れていた。動作中に受信衛星数が出るが、古いGPSだと樹林の中では2,3個がせいぜいだが、新GPSロガーだと平気で9個とか受信できてしまうので驚きだ。表示される測定精度は旧GPSでいいところで5,6mだが、GPSロガーだとほぼ常時1mだった。

歩いている最中は高度確認に使用。高度計も持っているが温度変化による誤差が大きいのが難点。この点、GPSは非常に正確。ただ、節電対策で測位間隔を1分に設定しているのでリアルタイムにデータが更新されない。1分間隔で高度が変わるはずが、しばらく変わらないことがあるのが謎。でも使用目的はデータロガーなのでまあいいか。

帰ってからデータをPCに取り込んで、山で撮影した写真に緯度経度高度データを埋め込む作業は、写真とログデータを選択すればソフトがやってくれるので楽ちん。デー

タを埋め込んだ後はエクスプローラで写真のプロパティを見れば撮影場所の緯度経度高度が分かるので作文で非常に便利！ 特に高度が分かるのは決定的で、単純な登り一辺倒の尾根なら高度で撮影場所が簡単に判別できる。もちろんヤマレコでの地図上の写真配置もクリック1発で終了で楽ちん。今後はデータロガーは手放せない存在になりそうだ。GPS付きのデジカメも増えているが電池消耗が心配なことと、ウェストポーチに入れたままで受信は大丈夫かも心配。その点、GPSロガーを別に持っていればどんなデジカメでも使用OKだし、ロガーを雨蓋に入れっぱなしにでもしれおけば受信状況はバッチリだろう。

Copyright(c) Yamareco. All Rights Reserved.
<http://www.yamareco.com/>